その一言から生まれる物語

えっ、ウソみたい？

日本児童文学者協会・編
浅賀行雄・絵

その一言から生まれる物語　目次

えっ、ウソみたい？

人間やめますか
村上しいこ
5

男子VS女子
森川成美
39

あした起こるお話
小手鞠るい
73

魔の六月二十二日
最上一平
97

スミレさんとぼく
朝比奈あすか
129

三太郎の決意
三田誠広
163

三太郎の決意

三田誠広

人生というものは、まったく、何が起こるかわからない。
生まれてから、わずか十年しか生きてこなかった少年にも、思いがけないことが起こる。
いまから語ることは、江戸時代の末期ごろの話なので、そう思って読んでほしい。
その日、父と母と三人で夕食を終えたあとで、三太郎は玄関のわきの客間に呼ばれた。
そこは来客のために用意された部屋で、三太郎はふだん入ることを禁じられていた。三太郎がそこに呼ばれたのは初めてのことだ。
何かへんだなあ……。
と思ったが、とにかく客間で、父と二人、対面した。
父の仕事は多忙で、外出していることが多く、夜も深夜でないと帰宅しなかった。夕食のときに自宅にいるのもめったにないことで、三太郎は気づまりな感じを覚えていた。

「三太郎よ。そなたに伝えておきたいことがある」
あらたまった口調で父が語りかけた。
「そなたはわが長男だ」
いったい父は何を言いだすのか……。
そう思った。
三太郎は一人っ子だ。一人っ子は長男に決まっている。
父は町方同心という下級の役人だった。いまでいえば警察署長みたいなものだ。
身分は低いが武士ということで、岡っ引きと呼ばれる配下を従えて町内の見回りなどをしているところを見かけることがあり、りっぱな仕事だと思っていた。
自分も同じ仕事をしたいと思っていたし、そのためにがんばろうとも思っていた。
武士の身分というのは親から受け継ぐものだ。家督相続といって、親の財産だけでなく、職業まで受け継ぐことができる。
それが長男の特権だった。

著者紹介

村上しいこ（むらかみ　しいこ）
三重県在住。『かめきちのおまかせ自由研究』で日本児童文学者協会新人賞、『れいぞうこのなつやすみ』でひろすけ童話賞、『うたうとは小さないのちひろいあげ』で野間児童文芸賞受賞。著書に『みんなのためいき図鑑』『イーブン』「日曜日」シリーズなど。

森川成美（もりかわ　しげみ）
東京都在住。「アオダイショウの日々」で小川未明文学賞優秀賞、『マレスケの虹』で日本児童文芸家協会賞受賞。著書に『はなの街オペラ』『さよ　十二歳の刺客』『ポーン・ロボット』「アサギをよぶ声」シリーズなど。

小手鞠るい（こでまり　るい）
アメリカ在住。「おとぎ話」で海燕新人文学賞、『ルウとリンデン　旅とおるすばん』でボローニャ国際児童図書賞、『ある晴れた夏の朝』で小学館児童出版文化賞受賞。著書に『文豪中学生日記』『森の歌が聞こえる』『午前3時に電話して』『卒業旅行』など。

最上一平（もがみ　いっぺい）
東京都在住。『銀のうさぎ』で日本児童文学者協会新人賞、『ぬくい山のきつね』で日本児童文学者協会賞・新美南吉児童文学賞、『じぶんの木』でひろすけ童話賞受賞。著書に『ようかいじいちゃんあらわる』『こころのともってどんなとも』など。

朝比奈あすか（あさひな　あすか）
東京都在住。「憂鬱なハスビーン」で群像新人文学賞受賞。著書に『翼の翼』『君たちは今が世界』『人生のピース』『自画像』『みなさんの爆弾』『人間タワー』『不自由な絆』『ばんちゃんがいた』『あの子が欲しい』『少女は花の肌をむく』など。

三田誠広（みた　まさひろ）
東京都在住。『僕って何』で芥川賞受賞。著書に『遠き春の日々　僕の高校時代』『海の王子』『青い目の王子』『春のソナタ』『いちご同盟』『永遠の放課後』『偉大な罪人の生涯　続カラマーゾフの兄弟』『親鸞』『日蓮』『空海』など。